

未来のつばさ

INDEX

P.2 理事長ごあいさつ

子ども達の自立に向けて

P.3 つばさTopic

寄稿 神奈川県立保健福祉大学 学長
東京ボランティア・市民活動センター 所長 山崎 美貴子

児童養護施設におけるボランティア活動

P.4 特集 未来へはばたく子ども達

P.6 紹介ひろば

児童養護施設・乳児院 京都大和の家

P.7 入会・寄付のご案内

支援者からの声 本年度の育英奨学・自立支援、受付期間

P.8 2009年度 育英奨学・自立支援資金 応募要項

申請受付から選考、支援完了までのプロセス

Vol.9
2009.12

子ども達の自立に向けて

特定非営利活動法人
エキスパート児童福祉支援協会
理事長 加苺 康作

未来を託す子どもに支援の手を差し伸べてくださる皆様のありがたいご寄付は、エキスパート児童福祉支援協会を通じて、奨学金・自立支援金として子ども達に届けています。

施設を巣立つ子どもは、扶養してくれる親族がない、家がない、学歴がないという3重苦を背負い社会に出ることが多いため、負のスパイラルに陥りやすいとの話を伺いました。

子ども達を取り巻く環境が複雑化しており、施設を巣立ってから自立のむずかしさを感じることであり、彼らを擁護しつつくださる施設の先生たちの献身的なボランティア的活動に感謝申し上げる次第です。

今号では山崎美貴子先生より「児童養護施設におけるボランティア活動について～忙しい企業人が子ども達のためにできること～」と題したご寄稿を頂戴しました。手の差し伸べ方が分からずに躊躇することは間々ありますが、出かけてみたら自分自身が

元気を貰って帰ってきたという話はよくお聞きします。誰かの、何かの役に立ちたい、それによって温かさを感じてくれる人がいることに喜びを覚え、自分の存在価値を認められるという姿を想像して、多くの方に行動を起こしていただきたいと思います。

弊協会では、施設を巣立った半年後に子ども達から近況報告を頂いており、今年も子ども達からの手紙が事務局に届きました。苦労しながらもがんばっている姿、しっかりと成長している姿を感じ安心感を覚えると同時に、彼らに降りかかる社会の荒波に憂いを覚えます。

子ども達が本当に安心して自立できる心豊かな社会の実現に向けて、それぞれの立場で行動を起こし、多くの理解者、賛同者を募っていきたくと思います。ご支援者の皆様にお礼を申し上げますとともに、賛同者の輪を広げることへのご協力も併せてお願い申し上げます。

事業目的

児童養護施設・母子生活支援施設などの福祉施設や里親家庭で暮らす子ども達が自立を迎えるときに、将来の可能性のある子ども達の夢を実現できるよう支援の手を差し伸べることが事業の目的です。

事業内容

- 家庭環境に恵まれない子どもへの育英奨学資金の提供
- 家庭環境に恵まれない子どもへの自立支援資金の提供

上記の事業について、賛同して下さる方々と協力し、子ども達の未来を育む事業を進めていきたいと考えております。

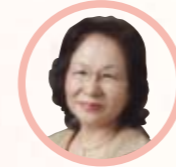
役員

- 理事長 加苺 康作
- 理事 酒井 正子、上田 伸夫、藤本 次男、米林 慶子
- 専務理事 三浦 直子
- 監事 伊藤 哲夫

寄稿

児童養護施設におけるボランティア活動

～忙しい企業人が子ども達のためにできること!～



神奈川県立保健福祉大学 学長
東京ボランティア・市民活動センター 所長
山崎 美貴子



■私たちのボランティア活動

「これで怖くなくなった…」と、小学生の男の子がつぶやきました。昨年の夏、とある企業の新入社員たちが、つくば市にある児童養護施設でボランティア活動をした時のことです。

老朽化した施設の壁に、子ども達からリクエストされた絵を描くという一大プロジェクト。2階のカウンセリングルームに続いている長くて暗い階段には、社員たちのアイデアでキリンやゾウなどの動物と色とりどりの花々が描かれました。そして、カウンセリングルームの入口には大きなピンクのウサギがいて、「はい。どうぞ」と、扉を開けようとしています。

近年、児童養護施設には、親の離婚やDV、児童虐待など、とても辛い経験をして入ってくる子ども達が増えています。施設のスタッフは家族のように接していますが、それでも、専門家による心のケアが必要な子どももいます。暗くて長い階段は、子どもにはちょっと怖かったようですが、社員たちが楽しい絵を描いてくれたので明るい雰囲気になりました。

その後も、同じ企業の社員たちが交代で施設を訪れ、環境整備をしたり、子ども達と遊んだりしています。また、その企業が協賛するゴルフツアーに子ども達を招待して、ゴルフを観戦したり、プロのゴルファーからゴルフを教わったり…。なかなかできない経験に、子ども達は大喜びでした。

一方、軽井沢にある児童養護施設にも、たくさんのボランティアが地元や都心から訪れています。近くに暮らす高齢の女性が子どもを家庭に招いて、本を読んでくれたり、おしゃべりをしたり、おやつを食べたり…。子ども達は温かい時間を過ごします。また、八王子市から車で、時々

通ってくるご夫婦のボランティアもいます。だんなさんはIT関係のお仕事をしているので、子ども達に理科や数学を教え、奥さまは子ども達と一緒にお菓子を作っています。お二人とも普段は仕事で忙しいけれど、お休みになると、子ども達やスタッフに会いに行きたくなるそうです。

■少しずつできることを

さまざまな事情で福祉施設に暮らしている子ども達のために何ができるのか。どうぞ、各施設のスタッフに相談してみてください。忙しくてでもできること、自分の特技や趣味を活かせること、会社の仲間や友達、家族と一緒にできること…。きっと何か見つかると思います。また、地域の子どものためのボランティア活動もいろいろありますので、最寄りのボランティア・センターにお問い合わせください。

誰かのために少しずつできることをして、気がついたら、自分自身もとっても元気になっていた！ というのがボランティア活動なのです。

◆東京ボランティア・市民活動センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
TEL:03-3235-1171 FAX:03-3235-0050

山崎 美貴子

1997年に明治学院大学教授、社会学部長、副学長を経て、2007年より神奈川県立保健福祉大学学長。現在、神奈川県社会福祉審議会会長、日本社会福祉実践理論学会理事、東京ボランティア・市民活動センター所長を務める。主な著書に「地域包括支援センターにおける総合相談」(第一法規出版 2009年)他多数。

未来へはばたく

今春から新たな生活をスタートさせた子ども達。支えられているという感謝の気持ちを知り、社会の厳しさと喜びを実感しているたくさんの子どもの近況が届いています。

子ども達



感謝を忘れず楽しい毎日を

■奈良県 飛鳥学院 出身 自立支援

今の生活はすごく楽しいです。分からない事もいっぱいあるけど、やりたかった仕事ができ毎日楽しいです。去年ボランティアで行った行事を、今年は自分が担当して進めたり、いろんな勉強会などにも参加させてもらったりと、自分のためになる事がたくさんあり、お金をもらう為に働くという考えが無くなりました。一人でやらなければいけない事がいっぱいできて、しんどい事とかもあるけど、仕事も楽しく、周りの人が支えてくれるので、そんなに苦ではないです。これからも感謝を忘れずに、毎日を過ごしていきたいです。



施設の先生から

知的障害者施設での就職は、大変で不安な部分もありましたが、本人の口からはいつも「仕事が楽しい」という声が聞こえ、働く姿勢も前向きです。今後も一生懸命仕事も生活も頑張ってくれることと思います。

人とのつながりの大切さ

■三重県 みのり苑 出身 自立支援

退所してから一人暮らしを始め、入社してすぐの研修でいろいろなことを学びました。一番心に残っているのは、人とのつながりです。いろいろな人々と接することで、まず精神面で大きく成長できたと思います。研修が終わってからも覚えることが多く大変ですが、職場の人たちが丁寧に教えてくれるので、頑張ることが出来ます。社会人になって4カ月がたった今、仕事が忙しく帰りも遅いですが、高校生活とは違った仕事のおもしろさを知りました。一人になって、今まで周囲の方々に助けてもらっていたんだと気づき、家族や施設職員のありがたさも知りました。



施設の先生から

4月からは親もとを離れ、社会人としての第一歩をしっかりと歩き出し生活しています。来所時に仕事について尋ねると、職場内の人間関係もよく、上司にも大事にされ、仕事が楽しいとの事で職員も安心しています。

介護福祉士になる夢に向かって

■長野県 松代福祉寮 出身 育英奨学支援

私が寮を出て一人暮らしを始めてから4カ月が経ちました。寮にいた頃は食事入浴もすぐにできるし、「おかえり」と言ってくれる先生たちもいました。今は帰っても真っ暗な部屋、食事の準備も一人で行わなくてはならず、今まで甘えていた自分に気づく事ができました。また、生活費のために週3回老人ホームで夜勤をし、土曜日はレストランでアルバイトをする中で、社会の厳しさの一端もわかりました。今私は介護福祉士になるという夢に向かって、利用者への心遣いや専門技術を学ぶ毎日ですが、一日一日を大切に過ごしたいと思っています。



施設の先生から

一人暮らしを始めた当初は、寂しさから何回か連絡してくることも。しかし、本児の趣味でもある柔道をやり始めてから少しずつ気持ちを切り替えることができるようになり、夢に向かって学び働く中で、日一日と社会に適應できていく姿がうかがえ頼もしい限りです。

笑顔でいられる学生生活

■佐賀県 慈光園 出身 育英奨学支援

短大へ進学し、最初はすごく不安でした。でも多くの友だちができ、お金の面でも支援していただいたお陰で無事何とかすることができました。毎日休むことなく、片道30分かけて自転車で通学していますが、家族や友人、周りの人に支えられ、充実した毎日を過ごしています。まだまだわからないこともありますが、一人で悩まずに必ず大切な人に相談しています。僕がたくさんの人に支えられお世話になった分、今を頑張り、そしていつか恩返ししたいと思います。なりたい夢があるので、それに向かって一日も無駄にすることなく頑張っていきたいと思っています。



施設の先生から

短大入学後に会った時、明るく楽しそうな様子を見てとても安心しました。保育士をめざしていることもあり、施設行事にもよく参加し、お手伝いしてもらっています。入所児童と遊んだり、面倒をみたりと、とても助かっています。

たくさんの方にチャレンジしたい

■東京都 里親家庭 出身 自立支援

現在私は、充実した毎日を過ごしています。今の目標は「たくさんの方にチャレンジして、毎日少しずつでも確実に先輩社員に近づく」こと。今は仕事を覚えて慣れていくことに精一杯ですが、成人式を迎える頃には、少しでも立派な社会人になり、できるだけ早く周りの方や困っている方の力になれるようなことを、小さなことでもできるようになりたいと思います。

仕事と勉強を両立し夢をかなえる

■長崎県 希望の灯学園 出身 育英奨学支援

仕事や会社の寮にも慣れ、毎日楽しく過ごしています。その一方、仕事と勉強の両立は想像以上に辛く、大変なものでした。しかし、退所した施設に泊まりに行った際、後輩の子ども達が私に駆け寄ってきたのです。その姿を見て、私は自分の夢をあきらめてはいけなく強い思い、保育士という夢をかなえるために頑張ろうという気持ちを持ち続け、両立することができています。

自分の力を信じて

■札幌市 柏葉荘 出身 育英奨学支援

私は児童養護施設での生活を通して、自分は多くの人たちに支えられて生活してきたという気持ちを今でもずっと持ち続けています。今は一人暮らしをして、アルバイトをしながら専門学校に通っています。どんなに辛くても、やはり自分で決めた道であり、自分の将来に大きな希望を持っているので、絶対に負けないように夢に向かって一生懸命頑張ります。

家族を支えるということ

■京都府 平安養育院 出身 自立支援

私は4月から、警備会社で働いています。仕事内容は、駅や球場の警備です。夜勤は眠たくなることもしょっちゅうで改めて仕事の大変さを感じています。今、社会人になって少し困っているのは経済面です。もらった給料で家族を支えていかなければならないからです。けれども、家族のためにも健康で仕事を続けて、楽しい生活を送りたいと思います。

紹介ひろば

エキスパート児童福祉支援協会がこれまでに支援した施設の先生方にお話をうかがい、施設内の様子や子ども達の様子をご紹介します。

児童養護施設・乳児院 だいわ 京都大和の家

施設データ

- 施設名称 京都大和の家
- 施設長 西川 満(児童養護施設)
稲盛 めぐみ(乳児院)
- 所在地 京都府相楽郡
- 経営母体 盛和福祉会
- 種別 児童養護施設 乳児院



「日々の生活の中で子ども達の思いに寄り添う」

京都府の南部地域に初の児童養護施設、京都大和の家が開所したのは'04年。頻発する児童虐待の報道に心を痛めた稲盛理事長の「逆境の子ども達を救いたい」という悲願が、乳児院、地域交流スペースなどを併設した児童福祉の理想的な拠点施設として結実したものです。「生活ルールも何もかも、職員と子ども達とで一から作り上げてきました」と、開設当初から在職する主任指導員の佐々木千秋先生。背景や環境も違う子ども達が、信頼できる大人たちとの“出会い直し”と“生活”を通じて人間性を確立していくという理念のもと、年齢や性別により分かれた10名程度の小グループが、6つのユニットで生活しています。また、より一般家庭に近い環境づくりを目的に、異年齢の子ども達6人の同室という試みも始めました。「施設の歴史が浅いことから、毎日のように新たな問題が起き

ます。そのたびに、皆で真剣に話し合い、解決策を模索する。しんどさにちゃんと向き合うことが大切ですね。職員の年齢層も若く、子ども達にとっては、相談しやすい兄妹のような存在。だからこそ、日々に流されず、原点に立ち戻り、子ども達一人ひとりの生活に寄り添うことが、6年目を迎えての課題とのこと。生後4日目の赤ちゃんが入所するケースもある乳児院は、生きていく中で最も重要といえる愛着経験を途切れさせないようにという配慮から併設されました。「どんな境遇に生まれても、人生はそれほど悪いものではないと思ってほしい。今年度は、『人とかかわる仕事がしたい』という子が、エキスパート児童福祉支援協会の育英資金で看護学校に入学しました。進学や就職で旅立つ子らを、初めて送り出しましたが、皆が夢を実現できるのを願っています」。

先生からのメッセージ

「夢を持ってたくさんの人々と交流を」



主任指導員
佐々木 千秋先生

子ども達が将来、自立して生きていくには、大人とのかかわりがとても大切です。ただ、子どもによっては、それがなかなかうまくできず、イライラしたり、整理できない場合もよくあります。生活の中で、彼らの思いの抛り所や心境の変化をすばやく感じ取ることが私たちに求められるわけです。私自身、開設当時、一人の男子高校生の心を、どうしても開くことができなかった経験があります。思えば、それが、今の自分の指標となっているような気がするのです。理事長がいつもいう言葉が「夢はかなう」。現代はとくに、夢を持ってない子ども達も多いですが、社会の中で何かをしたいと願うことは、素晴らしいこと。その決心を持って一歩踏み出した時に、自分一人ではない、たくさんの人に支えられているのだとわかる。エキスパート児童福祉支援協会の支援もそのひとつです。そのことを信じて、ぜひ自分の夢を実現してほしいと願っています。

特定非営利活動法人 エクスパート児童福祉支援協会

入会・寄付のご案内

エキスパート児童福祉支援協会は、会員の皆様の会費と寄付金を財源として、運営されています。当協会の趣旨と事業内容をご理解のうえ、一人でも多くの方にご入会いただけますようお願いいたします。

●入会金及び年会費と寄付金額

		入会金	年会費
正会員	法人・団体	20,000円	20,000円
	個人	10,000円	10,000円
賛助会員	法人・団体	なし	5,000円
	個人		3,000円
寄付		1,000円から承ります	

注) ①賛助会員は議決権を持ちません。

②当協会は、認定NPO法人ではありませんので、寄付金控除の税の優遇処置適用に該当しません。ご了承のうえ、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

●入会手続きと寄付のお申込み

入会・ご寄付に関するお問い合わせは、直接協会までご連絡ください。申込書をお送りいたしますので、ご記入後郵送、またはFAXで送っていただき、入会金・年会費・寄付金は下記の口座へお振込ください。振込手数料、送料金はご負担いただきますよう、お願い申し上げます。

●お振込先

三菱東京UFJ銀行 堀留支店 普通4518354

とくといひえいりかつどうほうじん エクスパート児童福祉支援協会
「特定非営利活動法人 エクスパート児童福祉支援協会」

* 支援者からの声 *

東京都 本領 久恵さん

昔から社会貢献に興味があったものの、募金箱に時々お金を入れることくらいしかやってきていませんでした。たくさん子ども達がチャンスを持てる機会を得てほしくて、ほんの少しでも役に立ちたいと思い、4年前に会員になりました。社会的養護を必要としている子ども達を支援することで、

子ども達に「自分はひとりじゃない」ということを感じて、これからの人生へ羽ばたいてほしいと思います。「未来のつばさ」を読んでいると、献身的に支援している方々の様子が伝わり、私自身も元気をもらえることに気付かれます。これからも、わずかではありますが、子ども達の力になり続けたいと思います。

お知らせ

本年度の育英奨学・自立支援、受付期間

12月1日より2009年度の育英奨学・自立支援資金制度の申請受付を開始しています。

受付期間：2009年12月1日～2010年1月25日必着



2009年度 育英奨学・自立支援資金

応募要項

1. 支援対象

次の子ども達が対象となります。

- ① 児童養護施設入所の児童
- ② 母子生活支援施設入所の児童
- ③ 里親家族の児童

上記で、原則として18歳を迎え進学・就職する予定の児童が対象です。その他の児童福祉施設入所の児童はご相談ください。

2. 支援内容と支援金額

- ① 進学者への支度金として
一人15万円(大学・短大・専門学校など)
- ② 就職者への支度金として
一人15万円

支援資金はいずれも返済義務はありません。

3. 選考方法

申請書類に基づき、当協会の選考委員会によって書類審査を行います。

4. 申請書類

詳細については、当協会本部にお問い合わせください。

5. 申請受付期間と選考結果の通知

受付期間：2009年12月1日～2010年1月25日必着
結果通知：2010年2月末日結果通知(郵送)

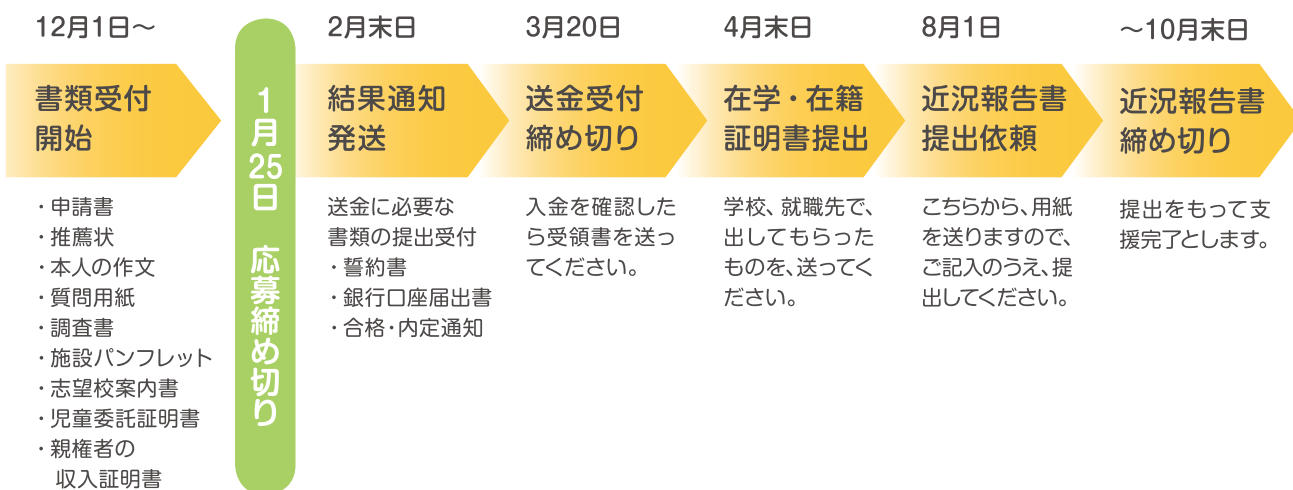
6. 申込先

申請書類は当協会本部へ提出してください。

※詳しくは当協会ホームページをご覧ください。

協会URL: <http://www.ex-child.or.jp>

申請受付から選考、支援完了までのプロセス



特定非営利活動法人

エキスパート児童福祉支援協会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10 日本橋インテリジェントフラッツ402

電話：03-5642-6330 FAX：03-3249-7730 E-mail：info@ex-child.or.jp

<http://www.ex-child.or.jp>